

## 景気動向調査結果

この調査は、県内中小企業の景況・金融動向を把握するため、当協会の保証を利用されている企業の皆様のご協力により、四半期ごとにアンケートを実施しているものです。

### 【調査方法】

郵送による無記名アンケート方式  
調査時点 平成24年12月7日発送  
平成24年12月20日投函期限  
調査対象 信用保証利用先1,500企業  
有効回答数 369 企業(回答率 24.6%)

※ 当期:平成24年10月～12月実績見込  
次期:平成25年1月～3月期予測

### 【DI値について】

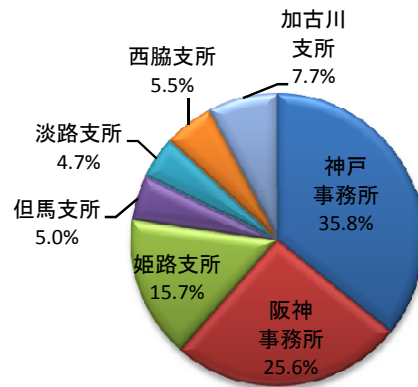
- ◎回答の各構成比を算出し、「増加」・「好転」等の項目割合から「減少」・「悪化」等の割合を差引いて算出しています
- ◎表示されている構成比とDI値は、四捨五入の関係で必ずしも一致しません

兵庫県信用保証協会

## I. 貴社の概要について

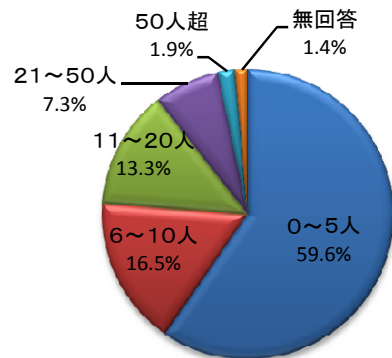
主たる事業所の所在地はどこにありますか。

当協会の部署	回答数	構成比
神戸事務所	130	35.8%
阪神事務所	93	25.6%
姫路支所	57	15.7%
但馬支所	18	5.0%
淡路支所	17	4.7%
西脇支所	20	5.5%
加古川支所	28	7.7%
小計	363	100.0%
地域不明・無回答	6	-
合計	369	-



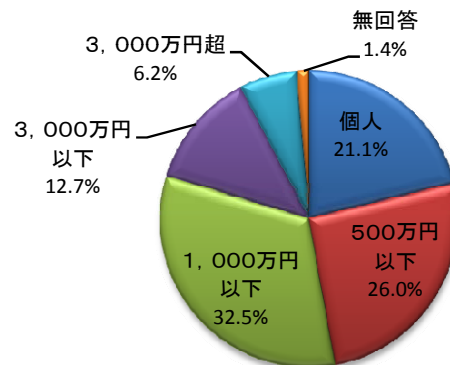
従業員数をご記入ください。

従業員数	回答数	構成比
0~5人	220	59.6%
6~10人	61	16.5%
11~20人	49	13.3%
21~50人	27	7.3%
50人超	7	1.9%
無回答	5	1.4%
合計	369	100.0%



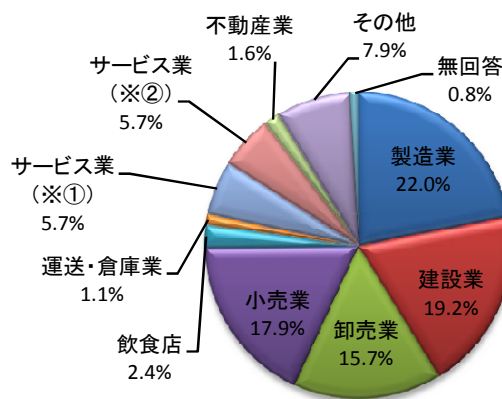
資本金をご記入ください。 ※個人は「0万円」と記入

資本金	回答数	構成比
個人	78	21.1%
500万円以下	96	26.0%
1,000万円以下	120	32.5%
3,000万円以下	47	12.7%
3,000万円超	23	6.2%
無回答	5	1.4%
総計	369	100.0%



主要な事業は以下のどの業種に分類できますか。

業種	回答数	構成比
製造業	81	22.0%
建設業	71	19.2%
卸売業	58	15.7%
小売業	66	17.9%
飲食店	9	2.4%
運送・倉庫業	4	1.1%
サービス業(※①)	21	5.7%
サービス業(※②)	21	5.7%
不動産業	6	1.6%
その他	29	7.9%
無回答	3	0.8%
合計	369	100.0%



※① 事業者を対象

※② 一般消費者を対象

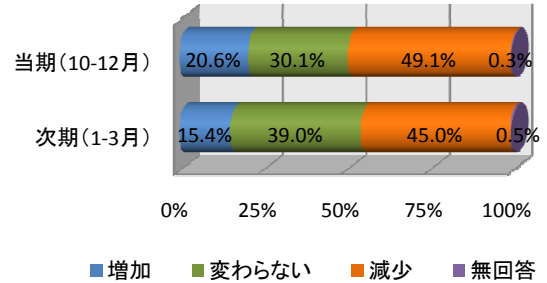
## Ⅱ. 貴社の景況、借入難易感についてお尋ねします。

- (1) 当期(12年10～12月期)は、前期(12年7～9月期)に比べどのような状況ですか。  
 (2) 次期(13年1～3月期)は、当期(12年10～12月期)に比べどう思いますか。

### 【生産・売上】

#### 当期

選択肢	回答数	構成比
増加した	76	20.6%
変わらない	111	30.1%
減少した	181	49.1%
無回答	1	0.3%
総計	369	100.0%



#### 次期

選択肢	回答数	構成比
増加すると思う	57	15.4%
変わらないと思う	144	39.0%
減少すると思う	166	45.0%
無回答	2	0.5%
総計	369	100.0%

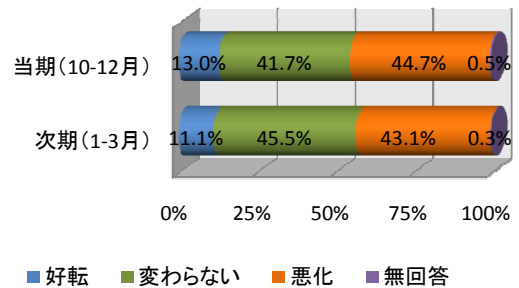
### 生産・売上DI(増加-減少)

調査時期(実績)	2011年10～12月	2012年1～3月	2012年4～6月	2012年7～9月	2012年10～12月	2013年1～3月(見込み)
兵庫県	▲25.6	▲28.0	▲20.4	▲23.6	▲28.5	▲29.5

### 【採算】

#### 当期

選択肢	回答数	構成比
好転した	48	13.0%
変わらない	154	41.7%
悪化した	165	44.7%
無回答	2	0.5%
総計	369	100.0%



#### 次期

選択肢	回答数	構成比
好転すると思う	41	11.1%
変わらないと思う	168	45.5%
悪化すると思う	159	43.1%
無回答	1	0.3%
総計	369	100.0%

### 採算DI(好転-悪化)

調査時期(実績)	2011年10～12月	2012年1～3月	2012年4～6月	2012年7～9月	2012年10～12月	2013年1～3月(見込み)
兵庫県	▲32.8	▲30.8	▲26.5	▲29.1	▲31.7	▲32.0

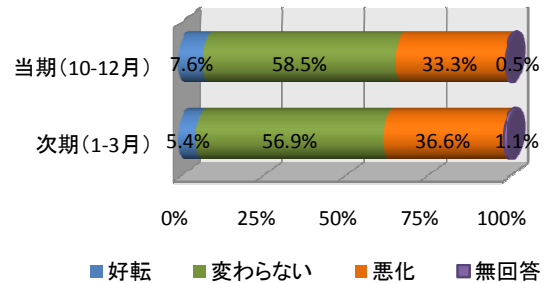
【資金繰り】

当期

選択肢	回答数	構成比
好転した	28	7.6%
変わらない	216	58.5%
悪化した	123	33.3%
無回答	2	0.5%
総計	369	100.0%

次期

選択肢	回答数	構成比
好転すると思う	20	5.4%
変わらないと思う	210	56.9%
悪化すると思う	135	36.6%
無回答	4	1.1%
総計	369	100.0%



資金繰りDI(好転-悪化)

調査時期 (実績)	2011年 10~12月	2012年 1~3月	2012年 4~6月	2012年 7~9月	2012年 10~12月	2013年 1~3月 (見込み)
兵庫県	▲35.7	▲30.6	▲23.8	▲21.6	▲25.7	▲31.2

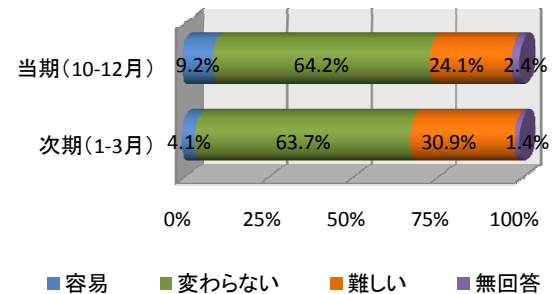
【借入難易感】

当期

選択肢	回答数	構成比
容易になった	34	9.2%
変わらない	237	64.2%
難しくなった	89	24.1%
無回答	9	2.4%
総計	369	100.0%

次期

選択肢	回答数	構成比
容易になると思う	15	4.1%
変わらないと思う	235	63.7%
難しくなると思う	114	30.9%
無回答	5	1.4%
総計	369	100.0%



借入難易感DI(容易-難しい)

調査時期 (実績)	2011年 10~12月	2012年 1~3月	2012年 4~6月	2012年 7~9月	2012年 10~12月	2013年 1~3月 (見込み)
兵庫県	▲25.2	▲21.7	▲16.4	▲11.9	▲14.9	▲26.8

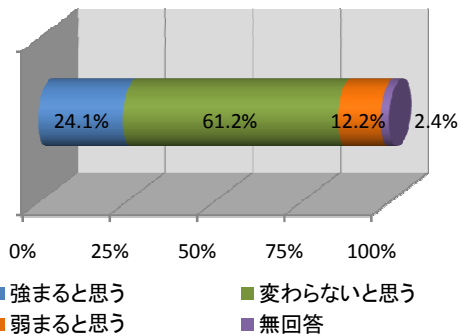
今回の調査では、当期(10-12月)に比べ次期(1-3月)において、生産・売上は「増加」、採算は「好転」とする回答が減少していますが、「減少」「悪化」とする回答も減少しています。資金繰りは「好転」、借入難易感は、「容易」とする回答が減少し、「悪化」「難しい」とする回答が増加しており、厳しい見方が窺えます。

【金融機関からの信用保証付要請】

次期

選択肢	回答数	構成比
強まると思う	89	24.1%
変わらないと思う	226	61.2%
弱まると思う	45	12.2%
無回答	9	2.4%
総計	369	100.0%

次期(1-3月)



信用保証付要請DI(強まるー弱まる)

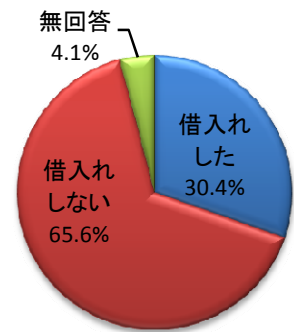
調査時期 (見込み)	2011年 10~12月 (1~3月)	2012年 1~3月 (4~6月)	2012年 4~6月 (7~9月)	2012年 7~9月 (10~12月)	2012年 10~12月 (1~3月)
兵庫県	7.6	3.1	7.6	7.3	11.9

金融機関からの信用保証付要請は、「強まると思う」とする回答が、「弱まると思う」とする回答を上回っており、前回調査と比べ、「強まると思う」とする回答の割合が増加しています。

**Ⅲ.当期(12年10～12月期)の借入れ(実績見込)についてお尋ねします。**

当期に金融機関から借入れをしましたか。  
※手形の割引は含めません

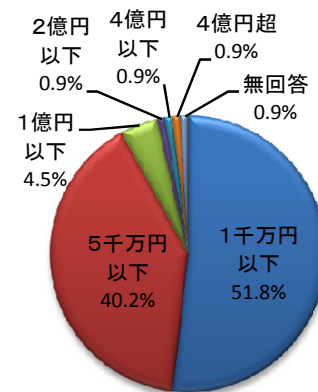
選択肢	10～12月期		7～9月期	4～6月期	1～3月期	10～12月期
	回答数	構成比	構成比	構成比	構成比	構成比
借入れした	112	30.4%	24.4%	26.1%	25.5%	33.0%
借入れしない	242	65.6%	73.2%	72.8%	74.0%	67.0%
無回答	15	4.1%	2.3%	1.1%	0.5%	0.0%
総計	369	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%



当期の借入れは、前回調査と比べ、6.0ポイント上昇しています。

当期に借入れした総額はいくらですか。

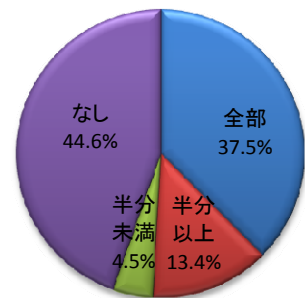
借入れ総額	10～12月期		7～9月期	4～6月期	1～3月期	10～12月期
	回答数	構成比	構成比	構成比	構成比	構成比
1千万円以下	58	51.8%	43.6%	44.0%	56.6%	51.3%
5千万円以下	45	40.2%	34.0%	37.9%	30.2%	37.2%
1億円以下	5	4.5%	9.6%	8.6%	4.7%	6.4%
2億円以下	1	0.9%	5.3%	2.6%	2.8%	1.9%
4億円以下	1	0.9%	1.1%	0.0%	2.8%	1.9%
4億円超	1	0.9%	2.1%	0.9%	0.0%	0.0%
無回答	1	0.9%	4.3%	6.0%	2.8%	1.3%
総計	112	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%



前回調査と比べ、当期の借入は「1千万以下」「5千万円以下」が増加し、92.0%と大半を占めています。

当期の借入金額のうち、信用保証付き借入れの割合はどのくらいですか。

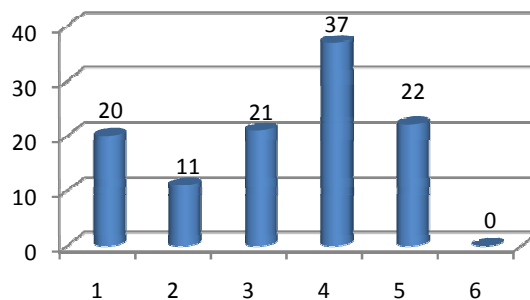
選択肢	10～12月期		7～9月期	4～6月期	1～3月期	10～12月期
	回答数	構成比	構成比	構成比	構成比	構成比
全部	42	37.5%	36.2%	29.3%	34.9%	36.5%
半分以上	15	13.4%	12.8%	12.9%	16.0%	15.4%
半分未満	5	4.5%	6.4%	11.2%	11.3%	15.4%
なし	50	44.6%	41.5%	39.7%	33.0%	30.8%
無回答	0	0.0%	3.2%	6.9%	4.7%	1.9%
総計	112	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%



前回調査と比べ、信用保証付き借入れの割合は「全部」とする回答が、1.3ポイント上昇しています。

上記の信用保証付き借入れの割合が「全部」「半分以上」または「半分未満」と答えた方にお尋ねします。信用保証を利用した理由は何ですか(複数回答)。

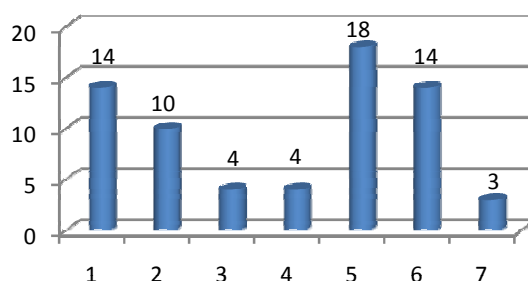
選択肢	回答数
1 自治体の制度融資を利用したため	20
2 担保・保証人不足だったため	11
3 長期資金の調達ができるため	21
4 <b>金融機関が保証付きを求めたため</b>	<b>37</b>
5 既往の保証付き借入れの借り換えのため	22
6 その他	0
総計	111



信用保証を利用した理由は「金融機関が保証付きを求めたため」が一番多く、次いで「既往の保証付き借入れの借り換えのため」「長期資金の調達ができるため」となっています。

上記の保証付き借入れの割合が「なし」と答えた方にお尋ねします。その理由は何ですか(複数回答)。

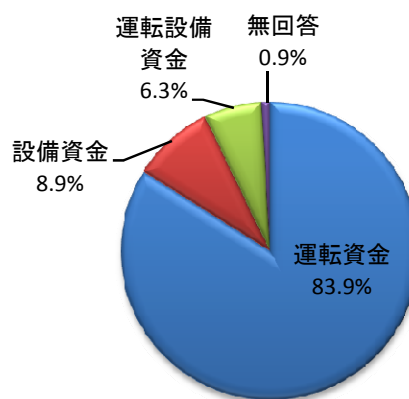
選択肢	回答数
1 保証料の負担を避けるため	14
2 保証を付けない借入れの借り換えだったため	10
3 保証枠を既に使っていたため	4
4 すぐに必要な資金であったため	4
5 <b>短期資金であるため</b>	<b>18</b>
6 金融機関から保証を付けない融資の勧誘を受けたため	14
7 その他	3
総計	67



保証付き借入れがない理由は「短期資金であるため」が一番多く、次いで「保証料の負担を避けるため」「金融機関から保証を付けない融資の勧誘を受けたため」となっています。

当期借入金の目的は何ですか。

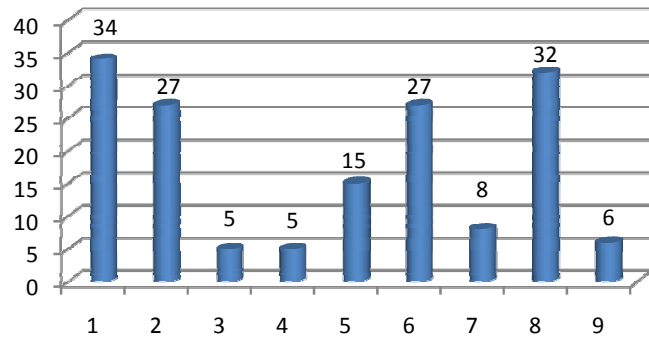
選択肢	回答数	構成比
運転資金	94	83.9%
設備資金	10	8.9%
運転設備資金	7	6.3%
無回答	1	0.9%
総計	112	100.0%



当期借入金の目的は、「運転資金」とする回答が83.9%と大半を占めています。

上記で「運転資金」「運転設備資金」と答えた方は、運転資金の種類は何ですか(複数回答)。

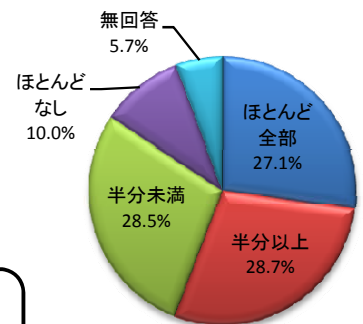
選択肢	回答数
1 既往借入の借換	34
2 売上減少・赤字補填	27
3 過剰在庫対応	5
4 支払条件短縮対応	5
5 回収条件悪化対応	15
6 売上増加運転資金	27
7 在庫積み増し	8
8 季節運転資金	32
9 その他	6
総計	159



運転資金の種類は、「既往借入の借換」が一番多く、次いで「季節運転資金」「売上減少・赤字補填」「売上増加運転資金」となっています。

**IV. 信用保証の利用についてお尋ねします。当期末(12年12月末)借入総残高に占める信用保証利用の割合はどのくらいですか。**

選択肢	10～12月期		7～9月期	4～6月期	1～3月期	10～12月期
	回答数	構成比	構成比	構成比	構成比	構成比
ほとんど全部	100	27.1%	29.1%	29.0%	30.1%	31.5%
半分以上	106	28.7%	26.8%	29.7%	30.1%	30.7%
半分未満	105	28.5%	29.9%	24.9%	24.3%	26.6%
ほとんどなし	37	10.0%	8.3%	9.4%	10.1%	7.2%
無回答	21	5.7%	6.0%	7.0%	5.3%	4.0%
総計	369	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

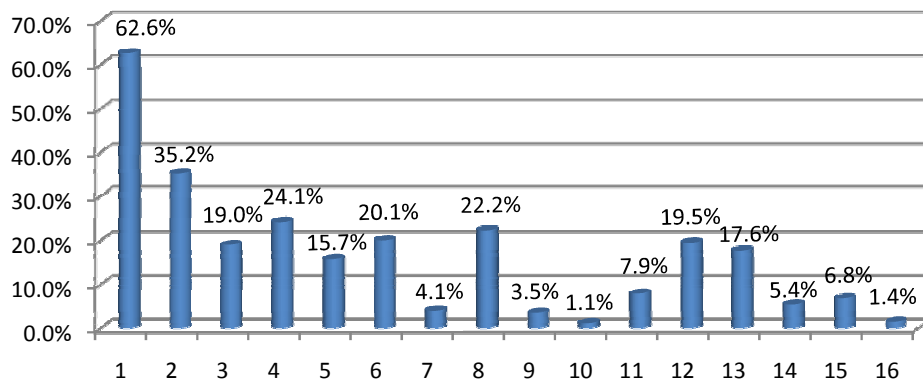


信用保証利用の割合は、「ほとんど全部」「半分以上」「半分未満」とする割合が、同程度となっています。



V. その他(経営上の課題等)について該当する番号をご記入ください(複数回答)。

選択肢	回答数	回答割合	選択肢	回答数	回答割合
1 売上・受注の減少	231	62.6%	9 過剰在庫	13	3.5%
2 競争激化	130	35.2%	10 過剰設備	4	1.1%
3 コスト高	70	19.0%	11 後継者難	29	7.9%
4 業界構造変化	89	24.1%	12 資金調達	72	19.5%
5 取引条件の悪化	58	15.7%	13 借入過多	65	17.6%
6 消費者ニーズの多様化	74	20.1%	14 円高	20	5.4%
7 技術・商品開発	15	4.1%	15 中国・韓国問題	25	6.8%
8 人材・労働力の確保	82	22.2%	16 その他	5	1.4%



経営上の課題は、62.6%が「売上・受注の減少」、35.2%が「競争激化」となっています。次いで、「業界構造変化」「人材・労働力の確保」「消費者ニーズの多様化」の順となっています。